

# 広報 市民リポーターだより No.5

## 鳳鳴高校 学校改革『二期制』に思う

リポーター

はつこ  
畠山肇子さん（獅子ヶ森1区）

昨年、大館鳳鳴高等学校は、百周年を迎えました。これを機に、現状に合わなくなった校訓を改定し、校歌を原本に最も近づけた形に統一、更に、時代ごとにデザインが微妙に異なる校章にも規格を設けました。

また「伝統にあぐらをかず、新たな歴史を築いていこう」と取り組んだ「内部改革」の第一弾として、平成十一年度から、従来の三学期制を、前期と後期の『二期制』に切り替えました。

このように、新しい取り組みで百一年目をスタートさせた母校を、私は卒業後初めて訪ねてみました。



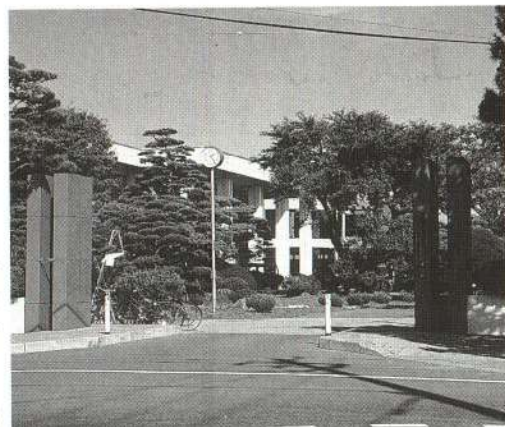
私が鳳鳴高校を卒業してから二十一年。私たちが学んだ木造の校舎は、私たちの卒業と同時に姿を消し、今では立派な三階建ての、鉄筋コンクリート造りの校舎になっていきます。その校舎も、早二十一年の歳月を過ごして来たことを思うと、月日の流れの早さをつくづく感じさせられました。

私が訪ねた日は、ちょうど後期の始業式の日の午後で、生徒の皆さんは授業中のためか、とても静かな校内でした。お忙しい中、校長室で中澤校長先生、松山教頭先生より、色々お話を伺聞きすることができました。

### 『二期制』について

『二期制』は、従来の三学期制から、前期と後期の二期制（前期が四月から九月までで、秋休みを挟んで、後期は十月から三月まで。定期考査は、前期が二回、後期が二回の計四回実施）とし、生徒がじっくり学習できる環境を整えようとするもので、その概要は、次のとおりです。

①六十五分授業と二期制を併用し、年間行事の日程を見直すこととゆとりを生み、このゆとりの中で、生徒達が自己をみつめ、自分の進路を設計し、その実現



のために、自ら学び、考える態度を育成することをねらっている。

②五十点未満を欠点にすることにより、生徒が真剣に学習に取り組める環境を作ると同時に、教師は、基礎基本をしっかり教えこみ、魅力ある、わかり易い授業を行う。生徒は、家庭学習の習慣を作り、学習量を増加し、毎日の学習を大切にする。

③三年次に私立文系を一クラス設置することによって、早期に進路を決定させる。

その他、新しい取り組みとして、小論文指導委員会を設置し、単に受験対策だけでなく、生徒の生き方や進路を考えさせる指導も行う。

・PTA活動の活発化と保護者と